

HiKOKI

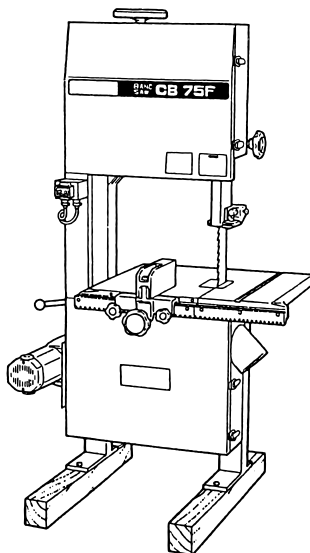
バンドソー

CB 75F

CB 75FA

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



CB 75F

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
ハンドソー使用上のご注意	5
各部の名称	7
仕 様	9
付 属 品	10
別 売 部 品	10
用 途	11
作業前の準備	11
ご使用前に	14
各部の調整	15
切断作業と操作の手順	20
ハンドブレーキの使い方	26
故障診断	27
保守・点検	28
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。

⚠警告

- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
- ⑨ **保護メガネを使用してください。**
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いてください。**
- 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。

警告

- ⑩ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしであることを確認してください。
- ⑪ 不意な始動は避けてください。**
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - 電源プラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑫ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。**
屋外で継ぎ（延長）コードを使用する場合は、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。
- ⑬ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。**
- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑭ 損傷した部品がないか点検してください。**
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- ⑮ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**
この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。
- ⑯ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。**
- この製品は、該当する安全規格に適合しているの改造しないでください。
 - 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
- 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

バンドソー使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、バンドソーとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① **本機は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、モーターや制御装置の焼損、破損およびけがの原因になります。詳細は、14 ページの「1. 使用電源を確かめる」の項を参照してください。
- ② **必ずアース（接地）してください。**
故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。詳細は、11 ページの「2. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認」の項を参照してください。
- ③ **カバーは必ず閉じて使用してください。**
カバーを開いた状態で使用すると、けがの原因になります。
- ④ **使用中は、回転している帯のこに手や顔などを近づけないでください。**
けがの原因になります。
- ⑤ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。**
そのまま使用していると機体が破損したりし、けがの原因になります。
- ⑥ **継ぎ（延長）コードを使用するときは、単相品の場合アース（接地）線を備えた 3 心キャブタイヤコード、三相品の場合アース（接地）線を備えた 4 心キャブタイヤコードを使用してください。**
アース（接地）線のないコードですと、感電の原因になります。
- ⑦ **作業中は手袋をしないでください。**
手袋をして作業しますと、回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑧ **セフティカバー (B) (図 1 参照) は必ず取付けてください。**
帯のこ刃が露出し、けがの原因になります。
- ⑨ **切断作業中は、帯のこ刃に注油しないでください。**
帯のこ刃が飛び出し、けがの原因になります。

⚠注意

- ① 帯のこ刃や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② スイッチを入れ帯のこの回転が完全に上昇してから、切断作業をしてください。
モーターに無理をかけ焼損の原因になります。
- ③ 本機が正常に動作することを確認してから切断作業してください。
思わぬ動きをして、事故の原因になります。
- ④ 木材の釘、石などは取除いてから切断してください。
帯のこ刃が破損するなど、事故の原因になります。
- ⑤ 帯のこ刃に木材を急激に押付けないでください。
帯のこ刃が破損するなど、事故の原因になります。
- ⑥ 帯のこ刃の側面から荷重を加えないでください。
帯のこ刃が破損するなど、事故の原因になります。
- ⑦ 帯のこ刃を回転させたまま、放置しないでください。
けがの原因になります。

各部の名称

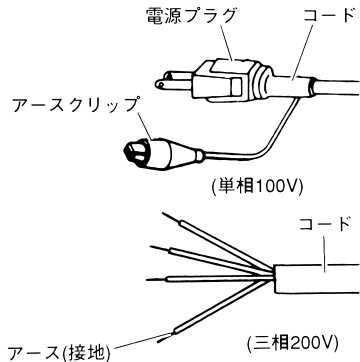
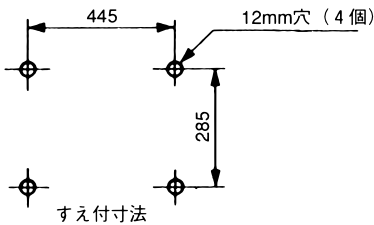
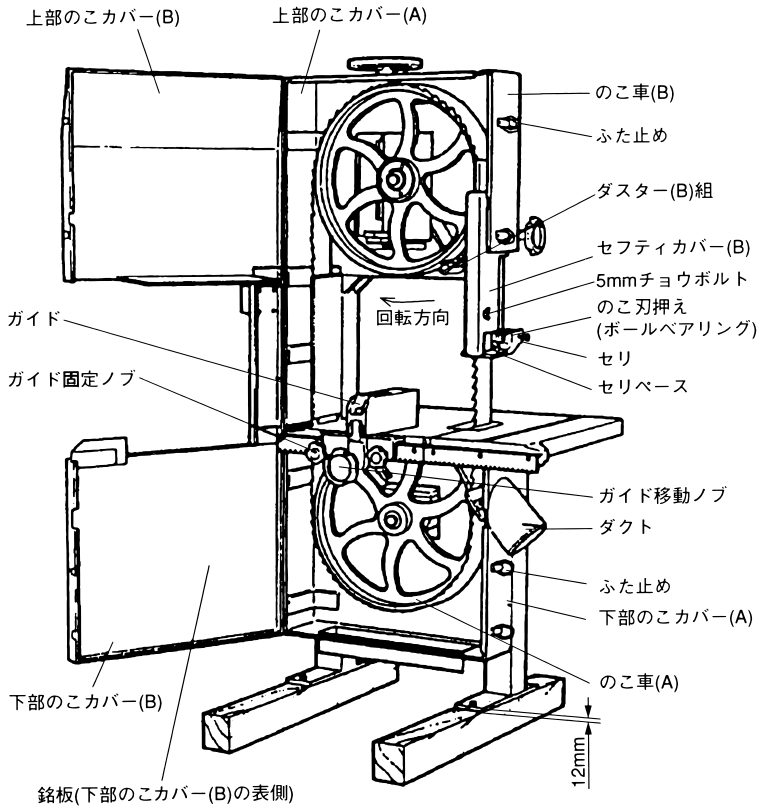


図 1

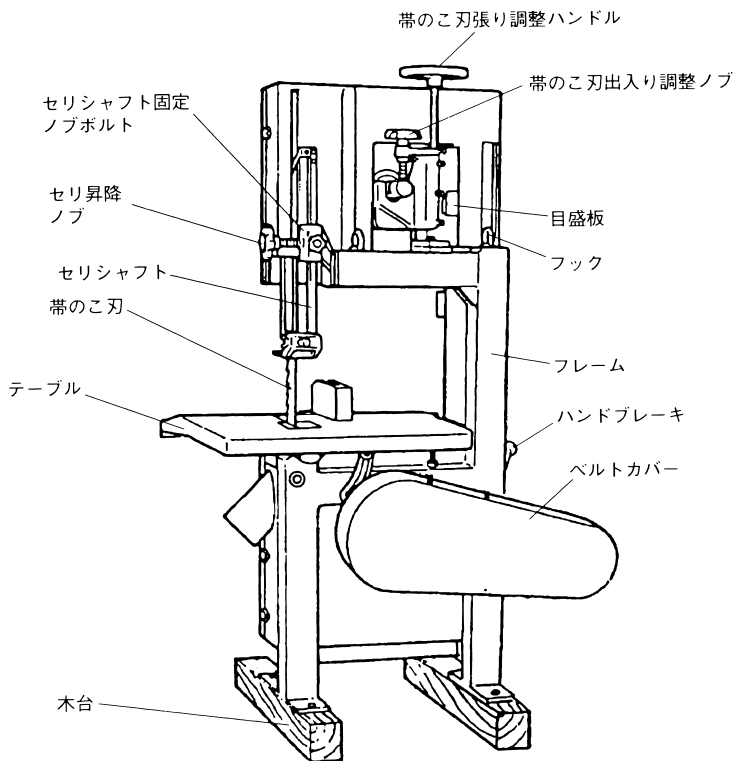


図 2

仕 様

項 目	C B 75 F / F A (1P) 単相	C B 75 F / F A (3P) 三相
使用電源	単相交流 50/60Hz共用 電圧100V 電圧200V	三相交流 50/60Hz共用 電圧200V 電圧400V
切断寸法	最大挽き割り高さ ふところ寸法	315mm (約 1 尺 4 分) 260mm (約 8 寸 6 分)
モーター	単相直巻整流子モーター	全閉外扇形モーター TFO-LK形 1.5KW4P
全負荷電流	15A 7.5A	6.8/6.4A 3.4/3.1A (50/60Hz) (50/60Hz)
帯のこ刃寸法	幅75×厚さ0.65×長さ2824mm	
のこ車直径	410mm	
のこ車回転数	900min ⁻¹ {900回/分}	720/860min ⁻¹ {720/860回/分} (50/60Hz)
テーブルの大きさ	幅525×奥行490mm	
テーブル傾斜	0° ~ 45°	
テーブルまでの高さ	700mm	
機体の大きさ	幅936×奥行740×高さ1533mm	
すえ付寸法	幅445×奥行285mm	(図1参照)
質 量	140kg (C B 75 F) 145kg (C B 75 F A)	150kg (C B 75 F) 155kg (C B 75 F A)
コード	アースクリップ付 3心 キャブタイヤコード 5m	4心キャブタイヤコード 5m
その他	雑音防止器付	—————
	材料切断幅デジタル表示装置付(C B 75 F Aのみ)	

付 属 品

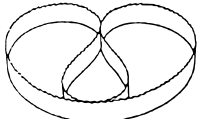
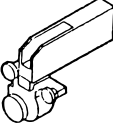






①帯のこ刃 (全刃チップ刃) (コード番号939971)  使い方は16ページ参照	②ガイド (1組) (本体装置)  使い方は17~18,20~22ページ参照	③両口スパナ(10×13mm) (1個)  使い方は21,29ページ参照	④両口スパナ(17×19mm) (1個)  使い方は21,26,29ページ参照
⑤ボックススパナ(13mm) (1個)  使い方は16ページ参照	⑥6mm六角棒スパナ (1個)  使い方は23ページ参照	⑦8mm六角棒スパナ (1個)  使い方は17,18ページ参照	⑧4極プラグ (1個) CB75FA(3P) 三相仕様品のみ  使い方は12ページ参照

図 3

別 売 部 品

..... (別売部品は生産を打ち切る場合があります。)


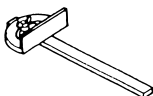

①帯のこ刃			
帯のこ種類	刃幅 (mm)	コード番号	備 考
帯のこ刃(A)	75	967701	1刃おきステライト刃
帯のこ刃(B)	75	967703	バチアサリ刃
帯のこ刃(C)	25	967712	
帯のこ刃(E)	12.5	967990	細帯のこ刃
帯のこ刃(F)	9.25	967991	
帯のこ刃(G)	6	967992	
②挽材案内装置 (コード番号 967684)  使い方は25ページ参照	③角度定規セット (コード番号 948583)  使い方は25ページ参照	④補助ローラー (コード番号 977872)  使い方は26ページ参照	

図 4

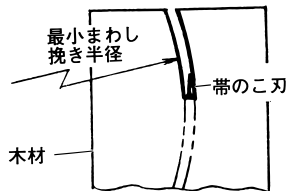
用 途

- のこ挽き作業全般
- ほぞ取りおよび造作用挽き割り、傾斜挽き作業
- 別売部品細帯のこ刃によるまわし挽き作業

下記に各種細帯のこ刃の最小まわし挽き半径を示します。

ご使用いただく最小まわし挽き半径に応じて、帯のこ刃を選択してください。

項目 帯のこ刃種類	刃幅	コード番号	最小まわし 挽き半径
オビノコ(C)	25mm	967712	240mm
オビノコ(E)	12.5mm	967990	110mm
オビノコ(F)	9.25mm	967791	50mm
オビノコ(G)	6mm	967992	40mm



注 ・木材の高さが高くなると最小まわし挽き半径は大きくなります。上記表は木材高さ30mmの場合を示します。

作業前の準備

ご使用になる前に次の準備をすませてください。

1. す え 付 け ……………
傾斜のない平たんな場所へ、安定した状態にすえ付けてください。
2. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認 ……………

⚠ 警 告

- 本機は安全面ばかりでなく誤動作を防ぐためにも必ずアース（接地）してください。
- アース（接地）線をガス管に取付けると爆発のおそれがありますので、絶対にしないでください。

ご使用にさきだち、本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下漏電しゃ断器と言います。）が設置されていることを確認してください。また、本機は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流15mA以下、動作時間0.1秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためにアース（接地）されるようおすすめします。

地中にアース極（アース板，アース棒）を埋めアース（接地）線を接続するなどのアース工事は，電気工事士の資格が必要ですので，お近くの電気工事店にご相談ください。

(1) 単相品の場合

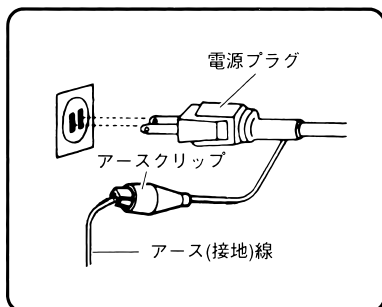


図 5

単相品をアース（接地）するときは，左図のアースクリップをお使いになると便利です。アースクリップ，アース（接地）線は念のために異常のないことを確認してからご使用ください。テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら，アースクリップと本機金属外枠との間の導通を確認してください。

(2) 三相品の場合

電源プラグとコードの接続は次のようにしてください。

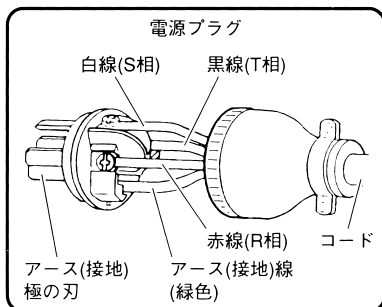


図 6

(1) アース（接地）極の刃にコードの「アース」または、「E」と表示してある緑色の線を接続してください。

(2) 電源プラグを電源にさし込んだときに，赤線がR相，白線がS相，黒線がT相となるように電源プラグに接続してください。

(3) アース（接地）極の刃，アース（接地）線（緑色）は，念のために断線，接続不良がないことを確認してからご使用ください。

なお，テスターや絶縁抵抗計をお持ちでしたら，アース（接地）極の刃と本体金属外枠との間の導通を確認してください。

3. 継ぎ(延長)コード ……………

⚠ 警 告

- 継ぎ(延長)コードは、損傷のないものを使用してください。

電源の位置がはなれていて継ぎ(延長)コードが必要なときは、製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため、電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

心線断面積	最大長さ
2mm ²	15m
3.5mm ²	30m

左の表は、コードの太さ(心線断面積)によって、本機に使用できるコードの最大長さを示します。これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因となります。

継ぎ(延長)コードは必ずアース(接地)のできるアース(接地)用の1心をもつ3心(三相品は4心)キャブタイヤケーブルをお使いください。

上表は、単相品の場合であり、三相品の場合は、最大長さの2倍が限度です。

4. 防錆油のふき取り ……………

工場出荷の際は、ガイド、テーブル上面にさび止めの油を塗っています。ご使用前に砂、土、切粉、ほこりなどの付いていない木綿の布などでふき取ってください。

5. 操作パネルについて(CB75FA形のみ) ……………

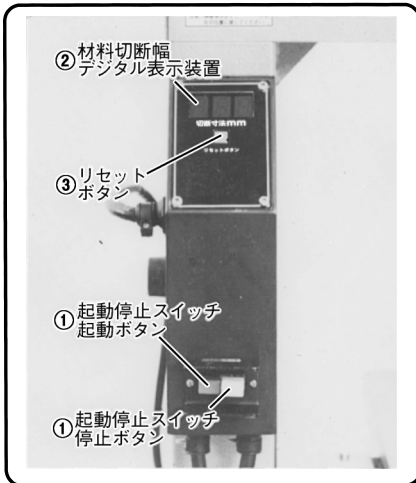


図 7

CB75FA形に装備された材料切断幅デジタル表示装置はプラグを電源に接続すると 表示します。

① 起動停止スイッチ

起動ボタン (白色) を押しとモーターが起動します。

停止ボタン (赤色) を押しとモーターが停止します。

② 材料切断幅デジタル表示装置

赤色数字

材料切断幅(帯のこ刃からガイドまでの距離)を数字表示(単位mm)します。

(22ページ「4. 材料切断幅デジタル表示装置の使い方」の項参照)

③ リセットボタン

リセットボタンを押すと、②材料切断幅デジタル表示装置の数字が になります。

6. 作業環境の整備・確認 ………

作業する場所が、2ページ「電動工具の安全上のご注意」の注意事項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確かめてください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

⚠ 警 告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～6項については、電源プラグを電源にさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる ………

必ず銘板に表示してある電圧で使用してください。表示を超える電圧で使用するとモーターや制御装置が破損するおそれがあります。また、直流電源、エンジン発電機および昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品が故障するだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる ………

⚠ 注 意

- スイッチが入っているのを知らずに、電源プラグに電源をさし込むと不意に起動し思わぬ事故の原因になります。

スイッチは「ON」側を押すと入り、「OFF」側を押すと切れます。スイッチが「OFF」になっていることを必ず確認してください。

3. 電源コンセントの確認 ………

電源プラグをさし込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようであれば修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと過熱して事故の原因になります。

4. 帯のこ刃を確かめる ………

⚠ 注 意

- 帯のこ刃に刃欠け、ヒビなどの異常がないことを確認してください。異常があると、帯のこ刃が破損し、けがの原因になります。

帯のこ刃は正規のものか、また刃欠け、ヒビなどがいないか十分確認してください。

5. 帯のこ刃の張り調整および出入り調整 ………

⚠ 警 告

- 帯のこ刃の張り調整をしないでスイッチを入れますと、帯のこ刃が飛び出し本体が破損するばかりでなく、けがの原因になります。

工場出荷時、帯のこ刃は取付けてありません。帯のこ刃の張り調整、出入り調整をしてください。(16ページ「1.帯のこ刃の張り方」の項参照)

6. 保護おおいの確認 ………

保護おおいは災害防止のためのものです。各カバーは所定の位置へ確実に取付けてください。

7. 回転方向を確かめる ……… (三相品のみ)

⚠ 注 意

- 逆回転を続けると、のこ車締付けナットがゆるみ、けがの原因になりますので、直ちにスイッチを切り、運転を停止してください。

スイッチを入れたとき、帯のこが矢印の方向(図1参照)に回転するのが正常です。逆回転する場合は、スイッチを切り、電源プラグを抜いて、コードの赤線(R相)と黒線(T相)をつなぎ替えてください。(図6参照)

各 部 の 調 整

⚠ 警 告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いておいてください。

1. 帯のこ刃の張り方 ………

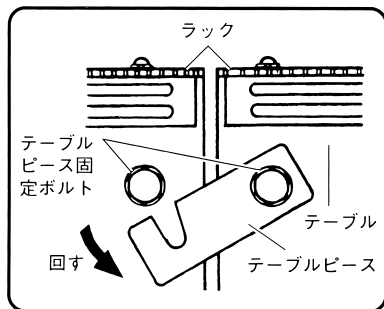


図 8

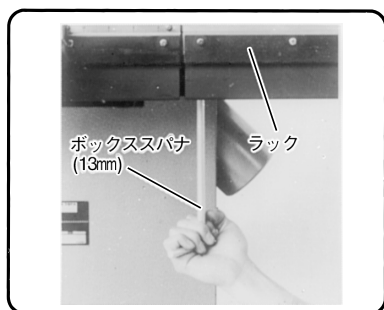


図 9

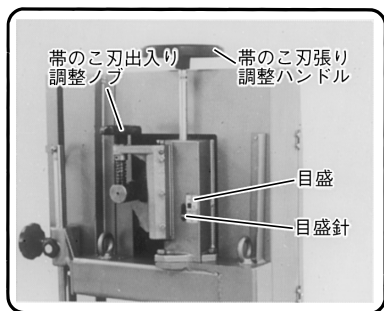


図 10

(1) ガイド(図1参照)が帯のこ刃にあたらないよう移動します。

(2) 上下のふた止めをはずして、下部のこカバー(B)と上部のこカバー(B)を開きます。(図1参照)

(3) テーブルの帯のこ刃出し入れ部(テーブル中央の割り溝)にテーブルピースが固定されています。(図8)

テーブルピース固定ボルト(図8はテーブルを下から見た図です。)を付属のボックススパナ(13mm)でゆるめ(図9)、テーブルピースを帯のこ刃が出し入れできる位置に回します。

(4) 5mmチョウボルトをゆるめて、セフティーカバー(B)を取りはずします。(図1参照)

(5) 帯のこ刃張り調整ハンドルをゆるめて、帯のこ刃をのこ車(A)・(B)に掛けます。(図1, 2参照)

(6) 帯のこ刃張り調整ハンドルを回し、目盛針を75mm目盛の上端位置にします。(図10, 図11)

(7) のこ車(B)を左方向と右方向へ交互に手で回しながら、帯のこ刃出入り調整ノブで帯のこ刃が図12の位置に安定するよう調整します。

- 注**
- のこ車(B)を回転するとき、手が帯のこ刃に接触したり、のこ車と帯のこ刃の間にはさまないようにしてください。
 - 帯のこの張りを変えたときは必ず帯のこ刃とのこ車が図12のようになるよう帯のこ刃出入り調整ノブで再度調整してください。

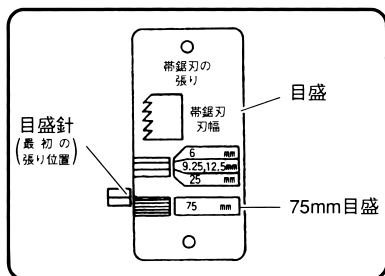


図 11

(8) 帯のこ刃張り調整ハンドルを回し、目盛針を 75 mm目盛中央位置に張ります。

この状態が最も適した帯のこ刃の針となります。

(9) セフティカバー(B)(図 1 参照)を5mmチョウボルトで取付け、テーブルピースをもとの位置に戻してテーブルピース固定ボルトで締付けます。

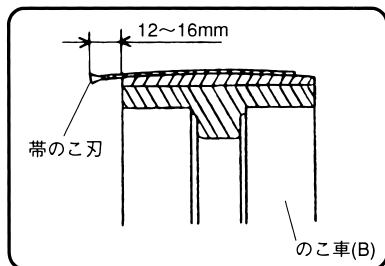


図 12

注 • セフティカバー(B)(図 1 参照)は必ず取付け、5mmチョウボルトでしっかり固定してください。

2. ガイドの調整 ………

(1) CB75F形の場合

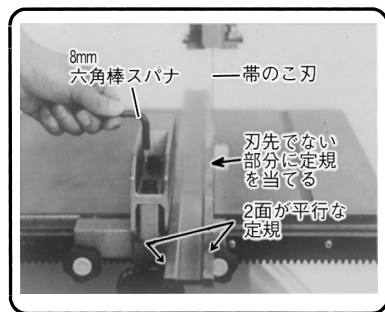


図 13

① ガイド取付け用六角穴付ボルト(2本)を付属の8mm六角棒スパナでゆるめ、帯のこ刃が正しく張られた状態で帯のこ刃の側面と平行になるよう、ガイドを調整します。

この際、図13のように帯のこ刃とガイドとの間に、2面が平行な定規を入れて使用しますと、調整が簡単で正確にできます。

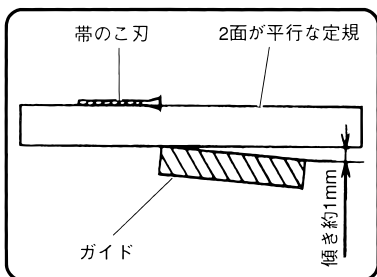


図 14

(2) 平行調整後は、付属の8mm六角棒スパナでガイドを固定してください。

注 • 帯のこ刃を交換した場合は、必ずガイドを調整してください。

• 上記のガイド調整を行なって、挽き割り作業をした場合、挽き曲りが生ずるときは、図 14のようにガイドを約1mm傾けてください。

(2) CB75FA形の場合

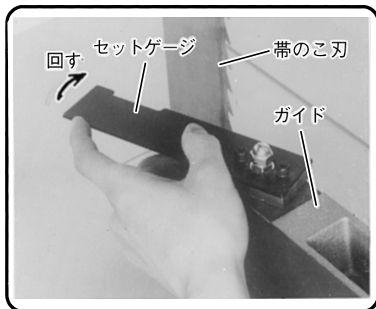


図 15

① セットゲージをガイドと平行になるまで回します。(図15)



図 16

② セットゲージを帯のこ刃の刃先がない部分に当て、平行を調整します。(図16)

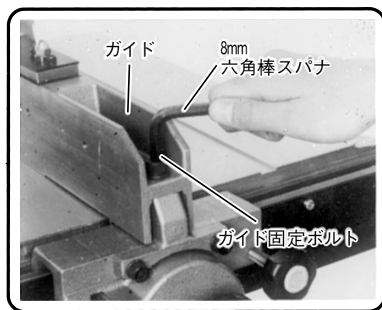


図 17

③ 平行調整後は、付属の8mm六角棒スパナでガイドを固定してください。(図17)

④ セットゲージをもとの位置に戻します。

- 注**
- 帯のこ刃を交換した場合は、必ずガイドを調整してください。
 - ガイドが正しく調整されていないと、挽き曲がりの原因になります。

3. セリの調整 ………

- 注**
- セリで帯のこ刃をきつくはさみつけないようにしてください。
 - 帯のこ刃の交換後、または作業前には、必ずセリが調整されていることを確認してください。

セリが適正に調整されていないと、挽き曲がりの原因になります。
セリは、次のように調整をしてください。

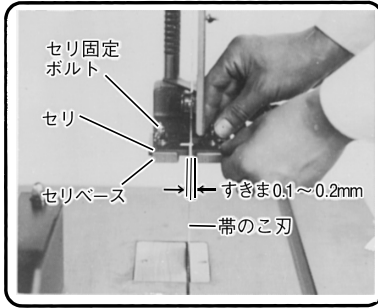


図 18

(1) 上部セリの調整 (図18)

- ① 帯のこ刃が正しく張られた状態で、セリ固定ボルト(2本)を付属の10mmスパナでゆるめます。
- ② セリと帯のこ刃のすきまが0.1~0.2mm(はがき1枚分程度)になるようセリを調整します。
- ③ 調整が終わりましたら、セリ固定ボルトで固定してください。

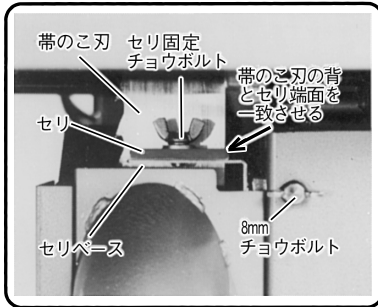


図 19

(2) 下部セリの調整 (図19)

- ① 下部のセリも上部セリの調整①~③の手順で行ってください。
- ② すきまの調整が終わりましたら、帯のこ刃の背とセリ端面が一致するようセリベースを移動し、8mmチョウボルトで固定してください。(図20)

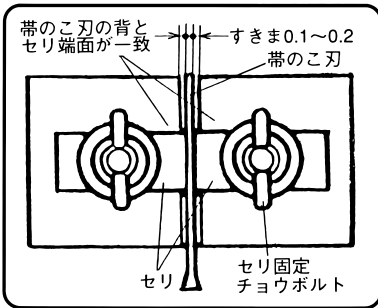


図 20

- 注**
- 上部のセリは、セリシャフト固定ノブボルト(図2参照)でセリシャフトを固定してから調整してください。上部セリは、テーブル面の上側にあるセリのことを指します。
 - セリが帯のこ刃に片当りして帯のこ刃を片側に寄せないようにしてください。
 - セリが帯のこ刃をはさみつけてブレーキにならないようにしてください。
 - セリの側面を帯のこ刃の面と平行になるようにしてください。

4. のこ刃押えの調整 ………

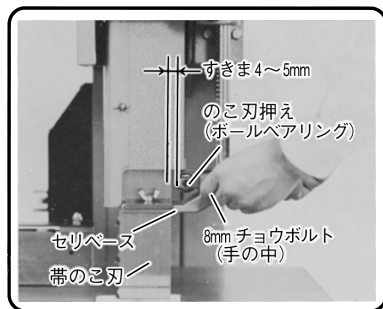


図 21

- 注** • のこ刃押えは木材を押し力で帯のこ刃がこの車よりはずれないように設けてあります。

切断作業と操作の手順

1. ガイドの使い方 ………

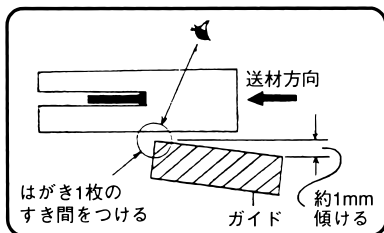


図 22

ガイドを図22のように帯のこ刃に対して1mmぐらい傾けて、この挽き作業のときガイド先端を目安として木材を送る方法が挽き曲がりを防ぐ“コツ”です。

ガイドの傾け方は、ガイドの調整方法と同じ要領で行います。(17ページ「2.ガイドの調整」の項参照)

2. 切断作業 ………

⚠ 警 告

- 運転中帯のこ刃張り調整ハンドル、帯のこ刃出入り調整ノブに触れると帯のこ刃が飛び出す原因となりますので絶対に触れないでください。
- 挽き終わりのとき、帯のこ刃に手、その他が接触しないようにしてください。

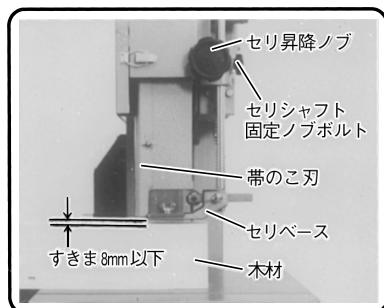


図 23

(1) セリシャフト固定ボルトをゆるめ、木材とセリベースのすきまが8mm以下になるよう調整します。(図23)

(2) 起動ボタン **ON** を押し、モーターを起動させて、帯のこ刃を回転させます。

(3) テーブルの上に木材を静かに載せ、ゆっくりと送り込みます。

(4) 木材の送り込みは図22のようにガイドの先端を目安にします。

3. 傾斜挽き作業 ………

⚠ 注 意

- 傾斜挽き以外のときは、刃口板をテーブルに取り付けて使用してください。

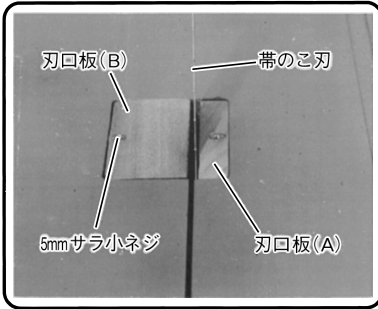


図 24

- (1) 刃口板を取付けている5mmサラ小ネジ 2本をゆるめ、刃口板(A), (B)を取りはずします。(図24)

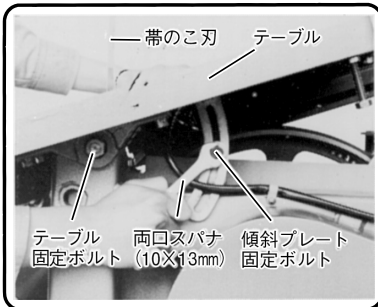


図 25

- (2) 付属の両口スパナ(10×13mm)で傾斜プレート固定ボルトをゆるめます。(図25)

- (3) 付属の両口スパナ(17×19mm)でテーブル固定ボルトをゆるめ、傾斜挽きの角度にテーブルを傾けてテーブル固定ボルトを固定します。(図25) テーブルの傾斜調整は0～45°までできます。

- (4) 傾斜挽き作業中、テーブルの傾斜角度が変わらないよう傾斜プレート固定ボルトでテーブルを固定します。

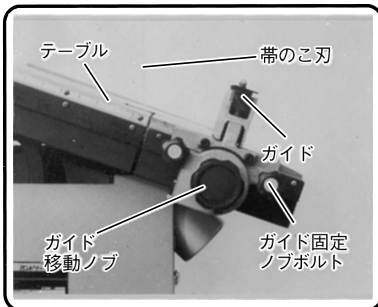


図 26

- (5) ガイドを帯のこ刃の右側にして挽き割り作業をしますと傾斜挽きが容易にできます。(図26)

4. 材料切断幅デジタル表示装置の使い方〔CB75FA形のみ〕

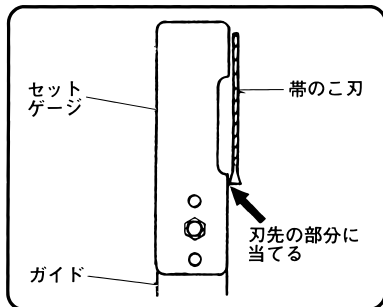


図 27

- (1) セットゲージをガイドと平行になるまで回します。(図15参照)
- (2) ガイドを帯のこ刃に近づけ、セットゲージを帯のこ刃の刃先の部分にかるく当てます。(図27)
- (3) デジタル表示装置下のリセットボタンを押して、デジタル表示を にします。(図28)

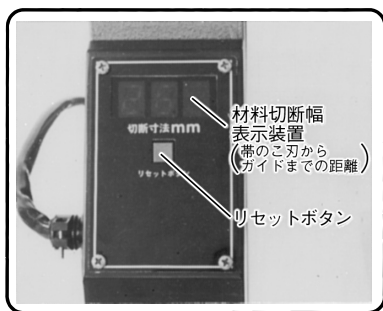


図 28

- (4) 必要な木材の切断幅寸法をデジタル表示するまでガイドを移動し、ガイド固定ノブでガイドを固定します。(図1参照)
デジタル表示装置は、帯のこ刃からガイドまでの距離(材料切断寸法)を3桁(単位mm)まで表示します。
- (5) 上記の調整が終わりましたら、必ずセットゲージをもとの位置に戻してください。

5. 細帯のこ刃での切断方法 …… (別売部品)

下記に付属品の帯のこ刃(75mm幅)の使用法と異なる部分のみを示します。

記載事項以外の内容は、付属品の帯のこ刃(75mm幅)の使用法と同様に作業してください。

(1) 細帯のこ刃の張り方

⚠ 警 告

- のこ車(B)を回転するときは、手が帯のこ刃に接触したり、のこ車と帯のこ刃の間にはさまれたりしないようにしてください。

(次ページに続く)

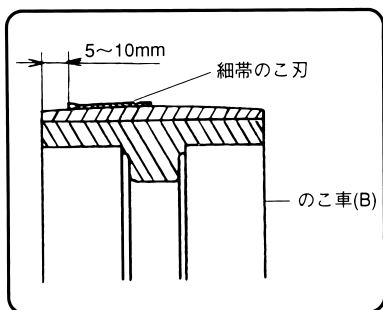


図 29

(2) ガイドの取りはずし方

① CB75FA形の場合

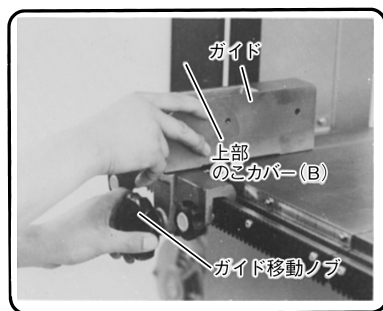


図 30

② CB75FA形の場合

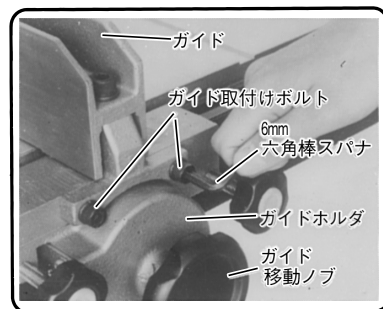


図 31

① 16ページ「1.帯のこ刃の張り方」の(1)~(5)項は同様に調整します。

② 帯のこ刃張り調整ハンドルを回し、目盛針を各帯のこ刃の幅に応じた張り位置指示の上端位置に張ります。(図10, 11参照)

③ この車(B)を左方向と右方向へ交互に手で回しながら、帯のこ刃出入り調整ノブで帯のこ刃が図29の位置に安定するよう調整します。

④ 帯のこ刃張り調整ハンドルを回し、目盛針を張り位置指示中央に張ります。

細帯のこ刃でまわし挽き作業をする場合、ガイドが邪魔になるときは、上部のこカバー(B)を開き、ガイド移動ノブを操作して左側から取りはずしてください。

付属の6mm六角棒スパナでガイド取付けボルトをゆるめ、ガイドを取りはずしてください。

再び、ガイドを取付ける場合は、ガイド固定ボルトを締めるだけでガイドと帯のこ刃の平行調整は不要です。

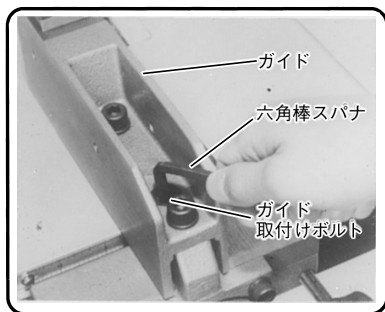


図 32

(3) 細帯のこ刃のセリ調整

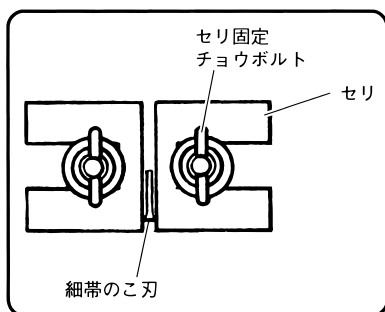


図 33

(4) のこ刃押えの調整

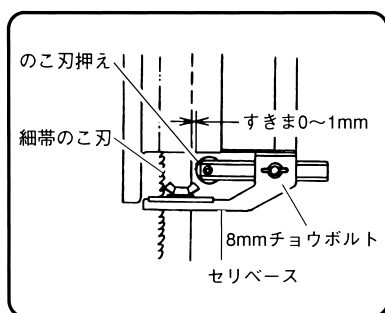


図 34

(5) 切断作業

まわし挽き作業の場合、木材を速く送ると表面が凹凸になるなど切断面が悪くなったり、帯のこ刃の早期破損の原因となりますので、ゆっくりと作業してください。

注 • CB75FA形の場合、ガイドホルダ内部にセンサが入っていますのでガイドのみをはずすようにしてください。

- ① 帯のこ刃が正しく張られた状態でセリ固定チョウボルト（上部セリはボルト）をゆるめ、帯のこ刃（75mm幅）のセリ取付け方法と逆にセリを取付けます。
- ② 帯のこ刃の刃先に軽く接触するように調整します。

8mmチョウボルトをゆるめ、帯のこ刃の背とのこ刃押え（ボールベアリング）のすきまが0~1mmになるよう調整します。

6. 挽材案内装置の使い方 …… (別売部品)

挽材案内装置を用いることにより、挽き曲りを少なくできます。

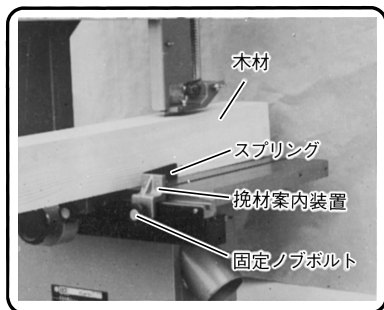


図 35

(1) 挽材案内装置はガイド溝へ挿入して、挽材案内装置固定ノブボルトで固定します。(図35)

(2) 木材を押付ける挽材案内装置中のスプリングは5~10mm程度たわむ量が適正です。

(3) ガイドを右側にして作業する場合はスプリング固定ボルトをゆるめ、スプリングの取付け位置を替えてください。

この方法で傾斜挽き作業にも使用できます。(図36)

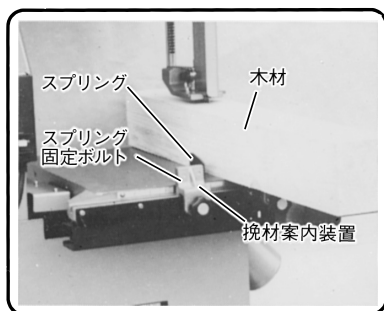


図 36

7. 角度定規セットの使い方 …… (別売部品)

木材を斜めに挽き割りたい場合は、角度定規を用いると簡単に作業できます。

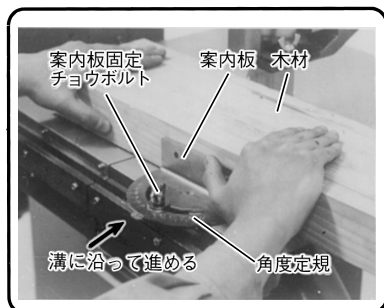


図 37

(1) 角度挽きを行なう場合、ガイドが邪魔になるときは、23ページ図30, 31の方法で取りはずしてください。

(2) 案内装置固定チョウボルトをゆるめ、案内板を角度挽きする角度に調整します。

(3) テーブルに設けられた溝に角度定規を挿入し、溝に沿って角度定規を進めることにより、簡単に角度挽き作業ができます。

8. 補助ローラーの使い方 …… (別売部品)

補助ローラーは長尺材の挽き割り作業を行なうのに便利です。

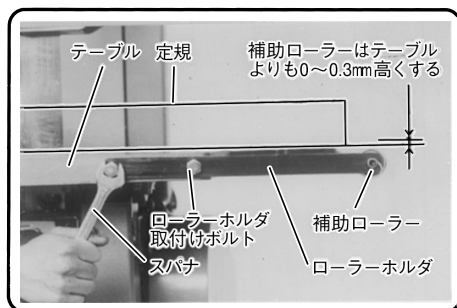


図 38

- (1) テーブルに付属の両口スパナ(17～19mm)でローラーホルダと補助ローラーをローラーホルダ取付けボルトで取付けます。
- (2) 定規を用いてローラー位置がテーブル面より0～0.3mm程度高くなるよう調整すると効果的な作業ができます。

ハンドブレーキの使い方

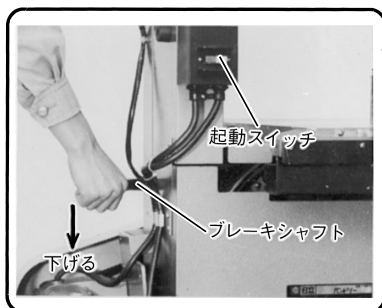


図 39

スイッチを切って、ブレーキシャフトを手で下げますと、ブレーキがかかり3～5秒でこの車の回転が停止します。(図39)

- 注** • 作業が終わりましたら必ず、スイッチを切り、電源プラグを電源から抜いてください。

故障診断

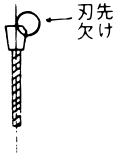
1. 帯のこ刃の走行が不安定な場合 ………

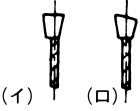
つぎのような場合、帯のこ刃の走行が不安定になるときがありますよく点検して、適切な処置をしてください。

	原 因	処 置
1	帯のこ刃、のこ車にオガクズ、ヤニなどが付着しているとき	帯のこ刃は布きれ、木片等にしみ込ませて、取除き、のこ車は、ワイヤブラシ、紙ヤスリ等で取除いてください。
2	帯のこ刃の張り調整が適正でないとき	「帯のこ刃の張り方」の項を参照し、正しく調整してください。
3	帯のこ刃の出入り調整が適正でないとき	「帯のこ刃の張り方」の項を参照し、正しく調整してください。
4	帯のこ刃に亀裂が生じているとき 〔帯のこ刃を張った状態で点検してください。〕	帯のこ刃を交換してください。
5	帯のこ刃に施してある“腰”が弱い場合	1～4の処置をしても、走行が安定しないときは、帯のこ刃に施した腰が弱くなっております。この場合、帯のこ刃に再度腰入れをする必要があります。お買い上げの販売店に帯のこ刃への再腰入れを依頼するか、または帯のこ刃を交換してください。

2. まっすぐに切れない場合 ………

セリの調整とガイドの調整を正しくしても、つぎのような場合は、挽き曲がりが生じる場合がありますので、その原因を確かめ適切な作業をしてください。

	原 因	処 置
1	帯のこ刃が切れないとき	目立て直しをしてください。
2	 帯のこ刃刃先(チップ部)が欠けたとき	目立て直しをしてください。 ただし、刃先の欠けがとびとびに1～2枚の場合は実用上支障ありません。 注 • 砂やクギが付いた木材ですと刃先の欠けの原因となりますのでご注意ください。

3	 <p>帯のこ刃目立時における刃先整形不良のとき</p>	<p>目立て直してください。 ただし、刃先の変形不良がととびとびに1～2枚の場合には実用上支障はありません。</p>
4	<p>切り始めに急激に材木を当てる</p>	<p>切り始めはゆっくりと送り、あとは木材に合った能率的な送り速度にしてください。</p>
5	<p>送り速度が速すぎるとき</p>	<p>速く送ろうと強い力で押しても、のこ刃に無理をさせるだけなので、木材に合った能率的な送り速度にしてください。</p>

保守・点検

⚠ 警 告

- 点検・手入れの際は、必ず停止スイッチを押して、電源プラグを電源から抜いておいてください。

1. 帯のこの保守 ………

- (1) 刃先を金属、コンクリート、石などにぶつけると、ステライト刃先が欠けるおそれがありますので、取扱いに十分注意してください。
- (2) 長時間ご使用にならないときは帯のこ刃をはずしておいてください。
- (3) 帯のこ刃を使用しないときは軽油を塗って“サビ”がでないように注意してください。ただし、のこ車ゴム部には軽油が付着しないよう注意してください。
また、使用する場合は軽油をふき取ってください。
- (4) “ヤニ”の多い木材は、帯のこ刃がしぶくなって、無駄な力を必要となったり、帯のこ刃を早く痛めることとなりますので、こまめに掃除してください。
- (5) 帯のこ刃に付着したオガクズなどを木片で取除いてください。

- 注** ●本機をご使用にならないときは、必ず帯のこ刃の張りをゆるめておいてください。
長時間張った状態のままですと、帯のこ刃の腰が弱まり、挽き曲りや飛び出しの原因になります。

2. カーボンブラシの交換（単相品のみ） ……

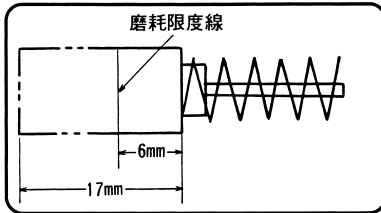


図 40

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。

カーボンブラシの磨耗が大きくなりますとモーターの故障の原因となりますので長さが磨耗限度線(6mm)ぐらいになりましたら、新品と交換してください。

また、カーボンブラシは、きれいにしてブラシホルダ内で自由にすべるようにしておいてください。

注 • 新品と交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。

交換方法 カーボンブラシは、マイナスドライバーなどでブラシキャップを取りはずしますと取り出せます。

注 • ご使用後は必ずモーター上の切りくずを取除いてください。

3. Vベルトの張り点検・調整 ……

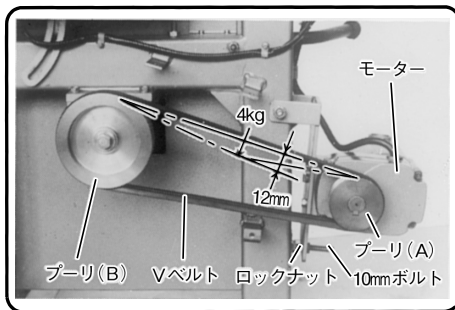


図 41

Vベルトの張りが弱くなるとVベルトプーリ間でスリップが生じ、作業効率を低下させますので定期的に点検してください。

Vベルトの張りは、プーリ(A)、(B)の中央部を4kgの力で押したとき12mm程度たわむ状態が適正です。

調整方法

(1) 付属の両口スパナ(10×13)で8mmボルト(3本)をゆるめ、ベルトカバーを取りはずします。(図2参照)

(2) 付属の両口スパナ(17×19)でロックナットをゆるめ、10mmボルトを回して図41のようなVベルトの張りになるよう調整します。

(3) 調整後は必ずロックナットでしっかり10mmボルトを締めつけてください。

4. のこ車・ダスターの点検 ……

のこ車の外周にオガクズが付着しないよう、ダスター(図1参照)を設けておりますがときどき帯のこ刃をはずして、のこ車に付着したオガクズなどをワイヤーブラシまたは紙ヤスリで取除いてください。

のこ車と帯のこ刃との間にオガクズが入ると、帯のこ刃に無理な力がかかり割れを生ずることがあります。

5. 各部取付けねじの点検 ……………

各部取付けねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もし、ゆるんでいるところがありましたら、締めなおしてください。

ゆるんだまま使いになりますとけがの原因になります。

6. 注 油 ……………

(1) 機械の摺動部には常に油を差して、いつまでも高い精度を維持するようにしてください。

(2) テーブル上面、ガイド面はさびがでないよう油を塗っておいてください。

7. 清 掃 ……………

(1) ときどき本体についている切りくずや、ごみを布などでふき取ってください。モーター部は水や油等でぬらさないようにしてください。

(2) ときどきのこ車に付着した切りくずを乾いた布などでふき取ってください。

8. 製品や付属品の保管 ……………

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- 子供の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所
- 軒先など雨がかったり、湿気のある場所
- 温度が急変する場所
- 直射日光の当たる場所
- 引火や爆発のおそれがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所には
保管しない。

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル



0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。

携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。

お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点を
ご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認い
ただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>